

朝日工業社の「これまで」と「これから」 ～新たな企業理念と長期ビジョン～

これまで ～100年企業の軌跡～

創業から戦後の再生（1925年～1954年ごろ）

朝日工業社は大正14年（1925）4月3日に合資会社として大阪市北区中之島で誕生しました。創業者の高須茂は紡績会社の技師で、自らの発明考案を世の中の役に立てたいとの思いから朝日工業社を設立しました。当時の日本の基幹産業であった紡績工場での温湿度調整や噴霧吸湿装置工事の設計施工で着実に業績を伸ばし、繊維業界で朝日工業社の名は知れ渡りました。

太平洋戦争により大きな痛手を負った当社でしたが、戦後10年間の間に全国的な営業網を完成させ、復興需要のなかで着実に再生していきました。

高度経済成長とともに躍進（1955年～1991年ごろ）

1955年ごろになると高度経済成長期が始まり、建設市場は活況を呈します。当社もこの好機に営業体制を強化して、一般ビルのほかにも食品・印刷・化学・電気・自動車工場など全国各地で幅広い分野の工事を受注しました。

1980年代には当時の成長産業として急速に拡大していた半導体工場向けのクリーンルームの施工に着手、国内の多くの工場で実績を積みほか、数々の知見を蓄積していきました。この知見をもとに超精密環境制御装置の製造に着手し、1984年に機器事業部を設立、1990年に船橋工場を建設しました。

また、さまざまな環境技術や空調技術へのニーズに対応するため1983年に習志野市に技術研究所を開設し、将来に必要とされる研究・開発に取り組む体制を構築しました。

技術革新とともに発展（1992年～2024年）

1990年代になると地球環境問題が深刻化、省エネの必要性が高まってきます。そのようななかで、当社が開発した「エコノパイロット」はその優れた省エネ性能から2003年に資源エネルギー庁長官賞を受賞、さらに介護老人保健施設で施工した「雪冷房システム」が新エネルギー財団会長賞を受賞しました。2015年にはZEBの要旨技術の一つとなる液冷空調システムを日建設計総合研究所と大成建設との共同で開発、現在建設中の新技術研究所に導入して、システムの有効性を検証する予定です。

1996年から自動野菜工場における最適環境の研究に着手、アグリ分野への参入をスタートさせました。この研究は2000年代のバイオテクノロジーの進歩と結びつき、2006年からは遺伝子組換えイネを開鎖型の人工環境下で安定的かつ低コストで大量生産するシステムの研究を進めて、これが現在千葉大学との共同研究である「ムコライス」のプロジェクトに発展しています。



創業者 高須茂と創業の地 大阪市北区中之島ビル



紡績産業向け装置のカタログ



当時の技術研究所



機器事業部 船橋工場



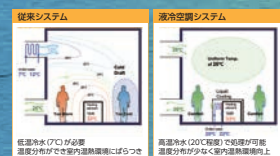
エコノパイロットは現在でもさまざまな施設で活躍しています



雪冷房システム概略



設備工事会社としてアグリ分野の研究にいち早く取り組んできました



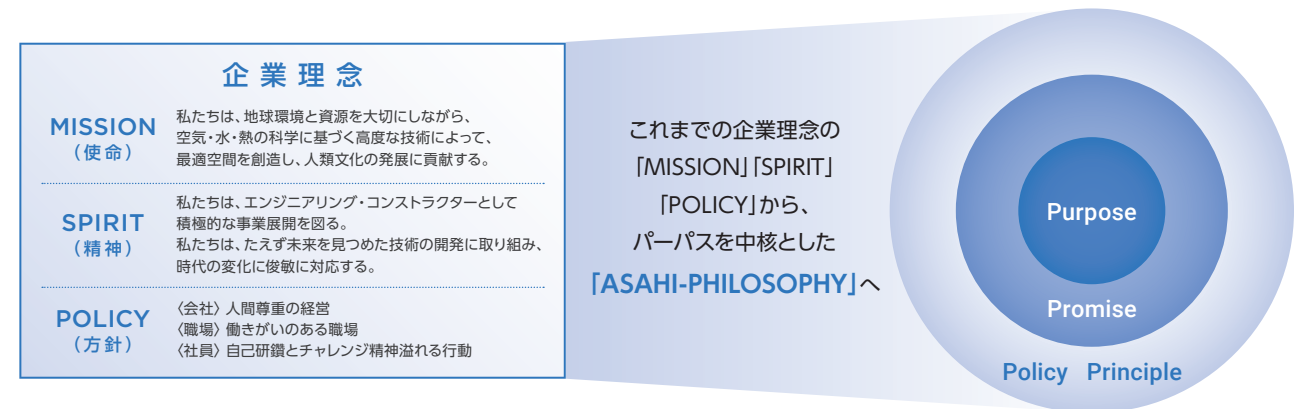
液冷空調システムコンセプト図

これから 新たな企業理念「ASAHI-PHILOSOPHY」と 長期ビジョン「ASAHI-VISION 2050」

なぜ企業理念を見直したのか

当社グループが1994年に制定した企業理念は、「MISSION」「SPIRIT」「POLICY」の3部から構成され、目指す姿、社会的な使命や経営姿勢、あり方が示され、30年以上にわたって経営の根幹を支えてきました。

しかし、社会環境の変化が激しく先行きの予測が困難で、また人々の価値観も多様化する現在においては、どのような価値を創造し社会に貢献するのか、それがステークホルダーからどれほど共感を得られるのかが、企業の競争力を高めて事業を発展させていくうえで重要となっています。そこで創立100周年を迎えるにあたって、あらためて当社グループが社会に何を提供するのか、何のために存在しているのかというパーパス（存在意義）を明確にし、それを経営の軸として事業を進めていくこととして、新たな企業理念「ASAHI-PHILOSOPHY」を制定することとしました。



長期ビジョン策定のプロセス

「ASAHI-PHILOSOPHY」で掲げたパーパス（存在意義）や理想の姿の実現を目指すために、これからの当社グループが向かうべき指針、方向性を示す長期ビジョン「ASAHI-VISION 2050」を策定しました。ビジョンの策定にあたり社内からメンバーを選出しましたが、2050年の未来に向けたビジョンの策定ということもあり、25年後も活躍している30代の社員を中心に委員会を立ち上げました。

2023年11月のキックオフを皮切りに社内外の環境分析、ビジョン・シナリオの具体化、スローガンの検討など、2025年2月までに20回以上の会議を開催し議論を重ねて本ビジョンを策定しました。

》長期ビジョン委員会メンバー

委員14名、平均年齢33.6歳（立上げ時）

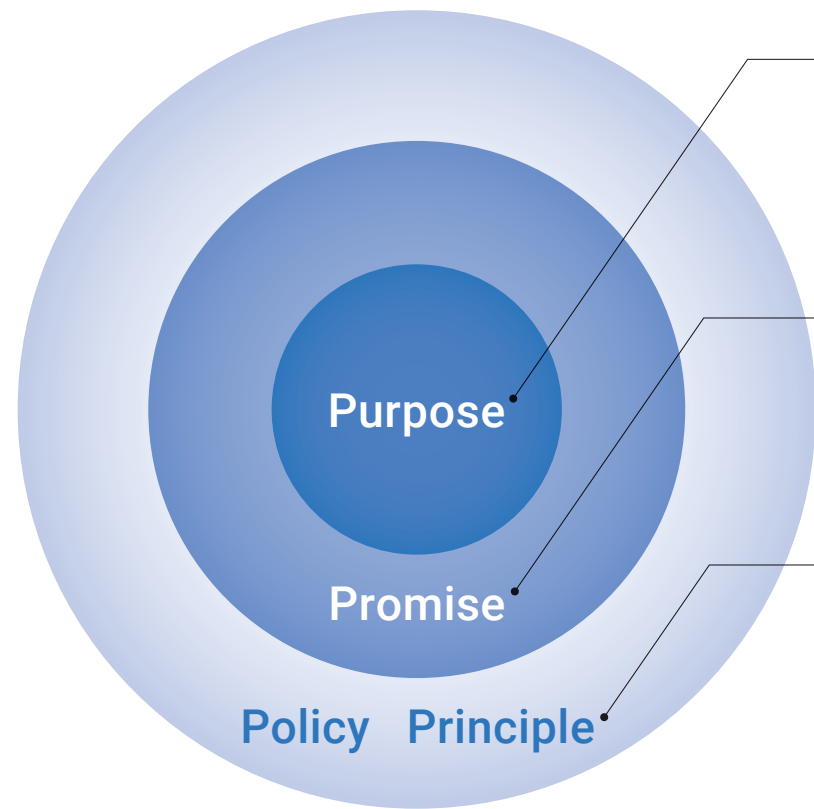


男性委員：10名
女性委員：4名

》2023年11月のキックオフから約1年6か月間、会議と議論を重ねて「ASAHI-VISION 2050」を策定

2023		2024												2025					
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
PHASE 1 環境等の分析と把握					PHASE 2 ビジョン・シナリオ・施策(案)の策定								PHASE 3 最終委員会(案)の完成と承認				PHASE 4 社内外開示と社内浸透		
STEP 1：社外環境分析 STEP 2：社内環境分析 STEP 3：現長期ビジョン検証 STEP 4：社内意識の把握 STEP 5：PHASEのまとめ					STEP 6：ビジョン策定にあたっての基本知識の習得 STEP 7：ビジョン(案)の策定 STEP 8：シナリオ(案)の策定 STEP 9：施策(案)の策定								STEP 10：最終(案)の完成、取締役会で決定				STEP 11：社内外開示 STEP 12：社内浸透		

新たな企業理念「ASAHI-PHILOSOPHY」



パーパスに込めた思い

朝日工業社グループは創業以来、技術を研鑽し、誠実にお客様と社会の期待に応えてきました。期待や使命に対する熱い想い、課題を解決する技術力、これが当社グループの「強み」です。また、100年を超えても信頼され、必要とされる企業であるためには、現状に満足せず、活躍する領域を広げて挑戦することが重要です。これら表現するために、当社グループのパーパスを『情熱と技術で、世界をもっと最適に』と決めました。

情熱

お客様と社会のニーズや期待に対して誠実・真摯・懸命に取り組む姿勢や仕事に対する使命感、挑戦意欲などの熱い想いを表しています。私たち一人ひとりの「情熱」が当社グループの新しい時代を切り拓く原動力です。

技術

当社グループの事業の中核となるものは「技術」です。どのような時代においても、他社を圧倒する、他社にはない高いレベルの技術力を保持する企業集団であり続けます。

世界を

地図上の「世界」だけではなく、人が暮らし、活動するすべての空間を表しています。それは、宇宙や海底であるかもしれません。今後の当社グループの活躍する領域の拡がりも含めたワードです。

もっと

現状に満足せず、さらに良いものを追求する姿勢、考え方を表しています。前向きな「もっと」が創意工夫する風土や挑戦する社風につながり、当社グループの成長と発展を支えます。

最適に

当社グループは常に、人や地球にとっての「最適」を追求する企業集団であることを目指します。現在の環境・空間にとどまらず、必要とされ求められる「最適」に飽くなき挑戦を続けていきます。

「ASAHI-PHILOSOPHY」を構成する「4つのP」

Purpose (パーパス: 企業の存在意義)

情熱と技術で、世界をもっと最適に

Create the Best, Make it Better. With Passion and Technology.

Promise (プロミス: お客様・社会への約束)

お客様への約束

誠実に向き合い、飽くなき探究心と確かな技術でベストソリューションを提供します

社会への約束

時代を見つめ、先進的な技術で新たな価値を創造し、人と地球の豊かな未来を実現します

Policy (ポリシー: 会社の活動指針)

- 事業を通して、持続可能な社会の創造に貢献する
- 誠実さをもって、すべてのステークホルダーと共栄する
- すべての人の人権を守り、多様性を尊重する
- 社員の成長と、充実したビジネスライフの実現を支援する

Principle (プリンシプル: 社員の行動指針)

- 私たちは、情熱と誇りをもって自らの業務を遂行します
- 私たちは、常に高みを目指し、失敗を恐れず挑戦します
- 私たちは、お客様や社会の課題解決のために自己研鑽に努めます
- 私たちは、互いに尊重し合い、縦・横・斜めにコミュニケーションを図ります
- 私たちは、「オール朝日」で一丸となり、笑顔で未来へ前進します

Promise

Promise (プロミス) は、当社グループがお客様や社会に対して行う「約束」です。Purposeを通じて、どのような価値を提供するのか、どのように貢献するのかを表しています。このPromiseを実現することで、これからも「信頼され、必要とされる企業集団」であり続けます。

お客様への約束

与えられたものを確実にこなすだけでなく、お客様に寄り添い、顕在または潜在する課題に対して最高の解決策を見つけ、それに取り組むことが当社グループの事業であり、「誠実」の基本です。これからも誠実に課題解決に挑戦し、お客様の期待に応えていきます。

社会への約束

時代に必要とされる、また次の時代をリードする「技術」を確実に身に付け、磨きを掛けて、要望や期待に応え得る価値を創造し続ける。豊かな未来のために、当社グループはこれからも人と地球の「最適」を追求していきます。

Policy 会社の活動指針

Policy (ポリシー) とは、Purposeの実現に向けた会社の活動指針です。これからの当社グループが何を基準に、どのように事業を行うのかを表わしています。

Principle 社員の行動指針

Principle (プリンシプル) とは、Purposeの実現に向けて必要となる社員の行動の指針です。業務を遂行するうえでの基準、価値観となるものです。

ASAHI-VISION 2050 — スローガン —

ワクワクする未来をカタチに ~Imagination & Creativity~

当社グループはこれからも、「信頼され、必要とされる企業」であり続けたいと考えています。そのためには、これまで培ってきた技術や信頼の維持はもちろん、新たなことへの挑戦が必要であり、意欲や発想力を持つ人材とそれを活かせる職場環境が不可欠となります。

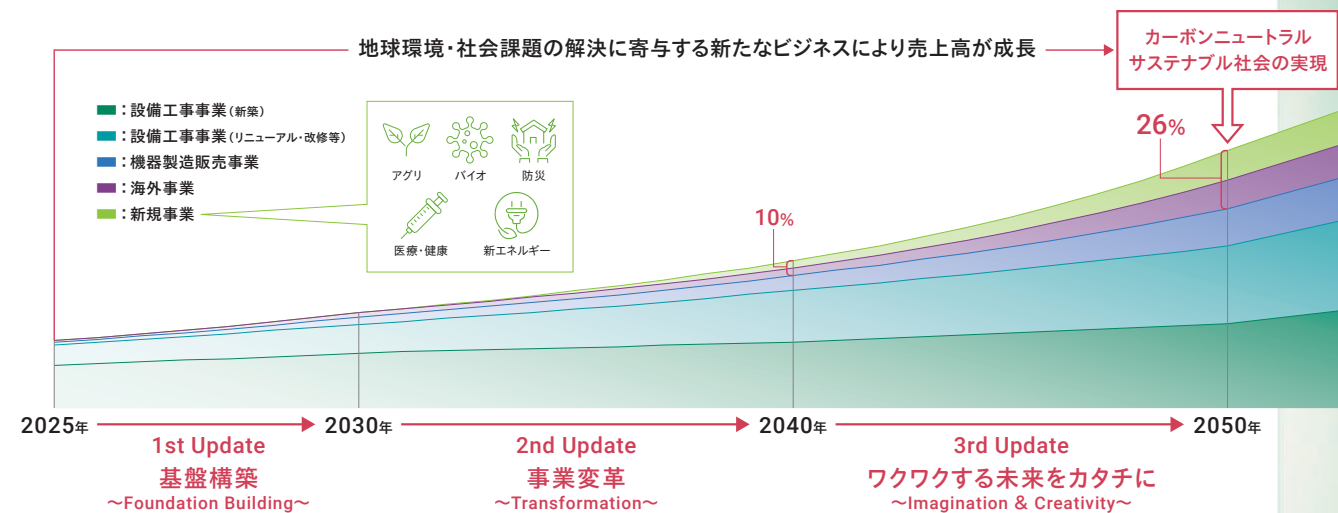
スローガンに掲げた「ワクワク」には、社員も含めたさまざまなステークホルダーがそれぞれの立場で希望や満足感を体感できるようにという想いが込められています。

もちろん、実現にあたって乗り越えなければならない壁はいくつもあると思います。イマジネーション(豊かな想像力)とクリエイティビティ(確かな創造力)を武器に、当社グループに関わるすべての人々が「ワクワクする未来をカタチに」を体感できるように積極的な挑戦を続けていきます。

朝日工業社が考える2050年の未来と理想の姿

朝日工業社では、世界また日本における2050年の姿を、「人」「技術」「自然」が調和するサステナブルな社会と予想しました。再生可能エネルギーへの完全転換、循環型社会の確立によってカーボンニュートラルが実現するほか、テクノロジーの進歩と人口動態の変化によって人類の活動空間がますます広がり、人々の垣根がなくなることグローバル化と価値観の多様化はさらに加速すると思われます。このような環境下においては、競争力を左右する高度な技術革新と多様な人材の活躍が不可欠であり、それを実現するためには当社グループがどのような企業であるべきかを検討しました。

ASAHI-VISION 2050の実現に向けて



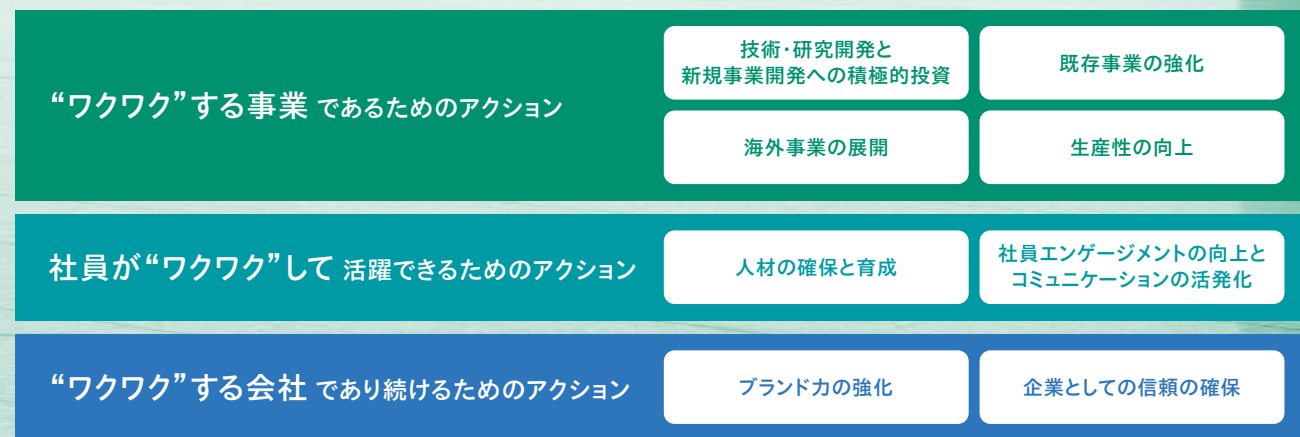
「ASAHI-VISION 2050」は2050年の理想の姿に向けて、3段階のアップデートを予定しています。

まず2025年から2030年の5年間で「1st Update」とし、現在の当社の課題を確実に解決し、ビジョン実現に必要な「基盤構築」の期間とします。次に2030年から2040年の10年間で「2nd update」とし、新たな事業への挑戦など「事業変革」に積極的に取り組む期間と位置づけました。「1st Update」で強化した既存事業での安定的な収益を基盤として、既存事業とのバランスを取りながら、新規事業の創出と拡大を図ります。最後に2040年～2050年の10年間で「3rd Update」として、2050年の理想とする姿「ワクワクする未来をカタチに」を完全に実現します。

地球環境や社会課題の解決とともに売上高が成長、特に現在のコア事業（設備工事業・機器製造販売事業）以外の海外事業や新規事業は、「2nd Update」が完了する2040年に売上高全体の10%程度、「ASAHI-VISION 2050」達成時では26%程度にまで成長することを目指します。

1st Update 基盤構築の達成に向けて

「ワクワクする未来をカタチに」するためには、まずは「1st Update」で求めた姿を達成しなければなりません。そのため、2030年までに当社グループが抱える課題の解決を目指して実行するべき取り組みを長期ビジョンのスローガンである「ワクワク」をキーワードに、「ワクワクする事業であるためのアクション」、「社員がワクワクして活躍できるためのアクション」、「ワクワクする会社であり続けるためのアクション」の3つに分類しました。



これらのアクション、取り組みについてはマテリアリティと関連付け、中期経営計画や単年度の事業計画で具体化し、推進していきます。

世界/日本の2050年の未来予想

「人」「技術」「自然」が調和するサステナブル社会

- サステナブルな社会の確立
- 人口動態変化と人類活動空間の広がり
- テクノロジーの進化
- グローバル化と地域統合の進展
- 異なる属性の人間が尊重され、共存する社会

当社グループを取り巻く経営環境

競争力を左右する高度な技術革新と多様な人材の活躍

- 事業活動における地球環境への配慮
- グローバル化と技術革新による新たなビジネスの発展
- より良い労働・職場環境の追求
- 社会的責任を重視した企業ガバナンスの確保

2050年の当社グループの理想とする姿

- 高度な独自技術により社会課題を解決
- 新たなビジネスへの挑戦
- 海外での事業拡大
- 働きがいのある仕事と職場の実現
- 時代に即したガバナンスとブランドの強化